

第4節 可児市高校生議会

(岐阜県可児市)

幸田雅治 (神奈川大学法学部 教授)

調査日：2023年9月26日(火) 10時～ オンライン

調査先：可児市議会議長 澤野 伸 氏

調査者：幸田雅治、大杉覚 (東京都立大学法学部教授)

1. 可児市の概要

可児市(かにし)は、岐阜県中南部に位置し、名古屋市及び岐阜市から30km圏内にあり、北部はおおむね平坦で、南部は県下最大級の工業団地、住宅団地やゴルフ場が点在する丘陵地となっている。また、市の北端部には日本ラインとして



て名高い木曾川、中央部には東西に流れる可児川があり、豊かな自然環境に抱かれている。また、市内には国指定史跡長塚古墳、銅たく発掘の地など多くの遺跡が分布している。

昭和40年代後半に入ると、名古屋市のベッドタウンとして人口が急増し、昭和57年4月、全国650番目の市として市制を施行。その後、平成17年5月には、兼山町と合併し、現在に至っている。

<可児市の基礎データ>

面積 87.57 km²

2020(令和2)年国勢調査人口 99,968人

2021(令和3)年度決算(普通会計)歳出総額 34,705百万円

2021(令和3)年度財政力指数 0.87

(市HP等による)

2. 高校生議会の経緯

可児市議会は、議会改革に熱心に取り組んできており、平成17年6月に一問一答・対面方式の導入、平成20年8月に議長交際費、政務調査費の公開(ホームページ、議会だより)、平成21年5月に議員の活動範囲についてとりまとめ、同年8月に正副議長選挙における立候補制度の導入などを行った。

そして、平成23年2月に「議会改革のための市民アンケート調査」(第1回)を実施した(回収数は810件、回収率は40.6%)。その件は、「市議会に関心が

ない」36.7%、「議員の活動内容を知らない」64.2%、「市民の声が市議会に反映されていると感じている」6.4%と、厳しい現状と議会改革を進める必要性を再認識することとなった。

その後、さらに議会改革に取り組むこととなり、平成23年9月には、議会基本条例特別委員会を設置した。具体的取り組みとして、平成23年10月に、サイボウズライブ(グループウェア)を活用した議員間の意見交換と資料提供、平成24年2月に、第1回議会報告会の実施(その後、毎年実施)、平成24年6月に、本会議インターネット配信開始(YouTube)し、平成24年12月には、議会基本条例を制定(施行は平成25年4月)した。

議会基本条例第2条では、「この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。」とし、第1号で「市民」は、「市内に居住し、通勤し、通学する個人又は市内で活動する団体をいう。」と定義された。また、第3条では、「議会活動を通じて、市民の多様な意見を的確に把握し、これを市政に反映させること」と明記された。これによって、高校生も市民の1人であり、高校生の意見を把握し、市政に反映することが重要となったが、併せて、若い世代の都市部流出が地方衰退につながることで、多額のコストをかけて若者を育成しても、都市部へ移住されては地域の担い手は減少してしまうことから、地域の魅力を知る場を提供し、地域の大人と関わる場所を提供することで、地域への愛着や当事者意識をもってもらい、新しい体験により、広い視野で社会とのつながりを実感してもらうことが欠かせないことと考え、ふるさと発展に寄与する人材育成の必要性を認識した。

まず、高校生議会に先立ち、「キャリア教育についての研修会」を平成26年1月15日に開催した。可児高等学校が実施するキャリア教育について、目的や内容などを把握するために、可児高等学校教諭浦崎太郎氏を講師とし、可児市議会議員及び介護専門職などの職員にも参加いただいた。

そして、平成26年2月に、議会主催のキャリア教育支援の取り組みを高校生議会として実施した。若い世代の意見を聞く機会をどう設けるのか意見交換し、意見書を採択した。議員16名、大学生2名、高校生24名、職員等15名が参加した。これが、第1回の高校生議会であり、その後、毎年開催している。

3. 高校生議会の目的

大人と若い世代(高校生)が交流することで、可児市の魅力を知る場が必要と考え、①地域への愛着や当事者意識の醸成、②広い視野や新しい経験の獲得、③社会や学問のつながりを実感することで、ふるさと発展に寄与する人材育成をすること、すなわち、地域課題解決型キャリア教育が目的である。

2. で触れた「キャリア教育についての研修会」は、可児高等学校が求める大

人と関わる機会と議会が求める若い世代の意見を聴取する機会を設ける方向性が合致したことで実現したものである。丁度、議会基本条例が制定され、議会としてキャリア教育支援で何かできないかとの思いを持っていたところ、高校側は、キャリア教育推進のためには、地域で活動する大人と関わる機会とその運営者が必要との意向があり、それが高校生議会へとつながっていった。

4. 高校生議会の開催状況

2. で触れた第1回に続き、毎年の開催状況は次のとおりである。

第2回 子育てに関わる事業者・団体の協力を得て開催。(H27.2)

『子育て支援』をテーマに意見交換し、意見書を採択。

(市長、議員 21 名、子育て支援団体 10 名、高校生 24 名、職員 8 名が参加)

第3回 キャリア教育を支援する団体の支援を得て開催。(H28.2)

来年度のキャリア教育活動計画について話し合い、意見書を採択。

(市長、議員 22 名、支援団体 13 名、高校生 29 名、職員 4 名が参加)

* 高校側より「顔ぶれの多様性」「発言する機会の確保」という点から高校生 3 名＋大人 3 名で 1 グループとし、12 グループ作ることを依頼されたため、可児市議会議員のほかに市内の NPO 法人（縁塾）に依頼し、8 名の協力があった。

第4回 実際起こっている問題をより身近に捉え意見交換を実施し発表。

(H29.2)

行政実務をクロスロード的な手法により議論し、議場において発表。

(市長、議員 22 名、支援団体 13 名、高校生 29 名、職員が参加)

第5回 高校生議会(投票率向上のための方策等／市選挙管理委員会協力)(H30.2)

第6回 高校生議会 (NHK大河ドラマを活用した可児のPR) (H31.2)

第7回 高校生議会 (R2.2)

(2部制で意見交換・発表後、意見書の提案・採択が行われた。)

(市長、議員 22 名、高校生 25 名、職員が参加)

【第1部】 R1.10 の模擬選挙立候補者の選挙公約だった 3 つのテーマについて生徒と議員が意見交換を実施

テーマ① 「学習支援 (学校以外の学習環境)」

テーマ② 「多文化共生」

テーマ③ 「社会福祉 (子育て、高齢者等)」

【第2部】 協議結果の報告と質疑応答

第8回 高校生議会 (R4.3)

(コロナ禍のため、従来のような生徒と議員のグループディスカッションという形ではなく、成果発表会という形式 (2部制) で活動報告やマ

ニフェスト提案などが行われた。)

(市長、議員 17 名、高校生 16 名、職員が参加)

**【第 1 部】可児高等学校のコアメンバーの生徒が調査・研究を進めている
3つのプロジェクトについての活動報告**

テーマ①「環境」・・・環境課題に向けて

海洋プラスチック問題に着目し、給水スポットを検索できるアプリを普及させ給水スポットを増やすことでペットボトル消費を削減することを提案。

テーマ②「教育・福祉」・・・福祉政策や子どものメンタルヘルス

ボランティアをしながら子育て世代にアンケートをとり今後の活動に活かす予定。居場所づくりのほか、高校生が勉強を教える寺子屋のようなことができれば・・・

テーマ③「可児市のブランディング戦略」・・・移住促進に向けて

可児市は「暮らす」という視点で考えるとよい点が多い。インスタグラムを利用し情報発信するなどして人口減少対策、移住促進に貢献したい。

【第 2 部】模擬選挙のマニフェストから市への提案

R3.11 月に校内で実施した模擬選挙の立候補者の選挙公約をもとに市への提案を行う。

・ 模擬投票の総括報告

・ 立候補者（3 人）からの提案

① 教育の経済的支援、外国籍市民への支援

経済的な理由で学ぶ機会が奪われないよう、外国籍の子も含めた多くの地域の子ども達のために支援を。

② 平等に医療が受けられ、健康で生活ができる

都市医療機関の充実やボランティア活動の支援が、市の活性化や市民の健康寿命を延ばすことにつながる。

③ 移住促進政策

人口を増やすには可児市が現在もつ魅力を発信することが大事。SNS の有効活用や移住者への補助金制度を。

第 9 回 高校生議会 (R5.3)

◆ 可児高等学校探求学習の成果発表

< 2 年生コアメンバーによる活動報告 >

(A) アーラと協力した児童との交流

(B) Corpbook (可茂 IT 塾とコラボした地元企業紹介ビデオの作成)

< 1年生による活動報告 >

(C) 里芋を活用した地域振興

(D) 休耕地の有効活用に向けての農業振興アプリの提案

◆ 探究学習を通じた市への提案

可児高発議第1号「探究活動に対する支援に関する意見書」を全員賛成で採択。

要望事項：可児市役所内に若者の探求活動を支援する部署を設置すること

高校生議会とは別に、第1回の模擬選挙を平成28年3月に行い、その後定期的に実施している。これは、高校生の段階では、受動的にしか選挙について学んでいないこと、つまり、「人を選ぶ」という経験がないということであり、積極的主権者教育が必要との認識に至った。

第1回の模擬選挙の時は、模擬選挙前に、生徒を中心に選管職員、議員を交えて5回の打合せを行った。生徒による争点案の抽出とマニフェスト案の作成、候補者の演説会(候補者3名による立会演説会)、グループディスカッション(生徒1、2年生全員が6人程度グループに分かれマニフェストの検証)、本番同様の投票用紙等を使って模擬投票、生徒による開票模擬投票を実施した。

5. 高校生議会の課題

実際参加した高校生の感想は、①活動する中で苦労はあったが、議員や市長からの意見・質問などから新しい視点に気付くことができ、今後の活動の糧になった、②地域課題の解決のためには市民が賛同できるものである必要があり、しっかり説明して理解してもらう必要があると強く感じた、③「税金を使ってお金を出して支援すればよい」ものではなく、支援後の未来を見据えた持続可能なものである必要があると感じたなどがあった。

可児市議会によれば、高校生議会の意義として、議会側からは、若い世代と交流し意見交換することで、多様な声を拾い上げ、地域課題に対する新たな認識や取り組みへのきっかけとすることができること、高校生などの若い世代側からは、様々な大人と接し、地域課題を自ら考えるきっかけとなり、高校生議会などを通して今後は地元市民や他学校などと連携して活動してみたいといった声もあり、その場限りのものではなく、可児市のために何ができるかをそれぞれが考えていく原動力のひとつとなっているとのことだった。

ここから見えてくる課題としては、第一に、「地域課題に対する新たな認識や取り組みへのきっかけ」を実効性あるものにするにはどうしたら良いか、第二に、「その場限り」ではなく、その後の原動力に結びつけていくにはどうしたら良い

かということが挙げられるだろう。

また、高校生議会に加えて、子ども議会、中学生議会の取り組みがされている。子ども議会は、平成 16 年より毎年実施している。令和 2 年 11 月 17 日（火）は、帝京大学可児小学校 6 年生 41 名が参加して、①議会ってどんなところ？②議会体験をしてみよう！③財政難の中、どの事業を廃止するか意見を出し合い、最後に採決を行うという形で実施された。

中学生議会は、令和 4 年 8 月 20 日に初めて、可児青年会議所主催で可児市・可児市議会協力のもと、「中学生議会」が開催された。市長、教育長、議員 13 名、中学生 9 名、職員が参加した。西可児中学校の 3 年生が主権者教育の一環として、授業で出された各クラスの意見や政策を参考に、1 班、2 班に分かれ、可児市が抱える地域課題や政策について考え、ユニークな案を提案した。

このように、高校生議会から、子ども議会、中学生議会へと広がりを見せてきているが、今後は、これらの年代を分けた取り組みをどう連動させていくのかも今後の課題と思われる。